

第3回 ITER機構職員募集説明会(仙台)でのQ&A

1. 日時・場所

平成20年7月15日(火) 18:30~19:30

仙台国際センター 3階 小会議室8

〒980-0856 仙台市青葉区青葉山無番地

2. 参加者：8名

3. 説明内容

1). ITER計画について

芳野隆治 (ITER プロジェクトユニット・ユニット長)

2) ITER 機構職員公募の面接試験について

安東俊郎 (ITER 協力調整グループ・サブリーダー)

4. 説明会でのQ&A

Q1) 国際機関の募集は、通常1年単位だが、ITERは？

A1) 建設期は人の固定を考えているので、5年単位が主です。

Q2) 「P3-P4」のハイフンは、なんの意味か？

A2) このランク範囲で採用を行うという意味です。

Q3) 今の17名の日本人はどのくらいのランクの職位にいるのか？

A3) 日本人はシニアが多く、部長級が多い (P4-5、又は、D)。日本からの今後の貢献を考慮しますと P2-P4 のクラスのポジションでの人材が必要と考えます。

Q4) 博士号の取得の要否は明示されているか？

A4) ポジションごとに明記されています。P-grade [professional staff] の技術系は、博士を要求される場合があります。G-grade [technical support staff] の技術要員の場合は要求されていません。

Q5) 今採用になった場合には、赴任はいつ頃か？

A5) 面接では2~3ヵ月後と回答して、それが少し遅れても対応して貰えるようです。特に日本の年度末が3月末であることは考慮されているようです。

Q6) 原子力の経験がない人が採用された事はあるか？

A6) あります。事務方は幅広く採用されています。ただし ITER 計画についての知識を持っておく事をお勧めします。